

久喜市放課後子ども教室「ゆうゆうプラザ」は、平成17年度の「くきっ子」開設から今年で20年目を迎え、市内すべての小学校で開催されるなど、皆様の熱い思いに支えられた全国に誇れる事業となりました。これもひとえに、今日まで、ゆうゆうプラザの企画・運営の携わる実施委員はもとより、講座指導者やサポーター、保護者、そして地域の皆様、また、校長先生をはじめとした学校関係者の深いご理解とご尽力の賜物であると、心から感謝申し上げる次第でございます。

この「ゆうゆうプラザ」は、子どもたちの安心・安全な居場所であり、地域コミュニティを作る場所であると同時に、子どもたちが、学校では学ぶことができないことや体験できないことなど、様々な経験ができる場所でもあります。また、私たち大人にとりまして、子どもたちと過ごす、かけがえのない時間であり、人生を豊かにしてくれる大変有意義な事業であると感じているところであります。

教育委員会といたしましても、地域学校協働活動の大きな柱の一つである「放課後子ども教室」が、学校・家庭・地域の協働の下、目的・課題の共有をしながら、ゆうゆうプラザの更なる発展・充実を図ってまいります。

結びに、子どもたちが心豊かに、かつ、健やかに育まれる環境づくりを進めるため、関係各位のお力添えをいただけますようお願い申し上げますとともに、各ゆうゆうプラザのますますのご発展を祈念し、あいさつとさせていただきます。

「さあ今日もより楽しんで生き生きと ともに学んで遊んでらんまん」

運営委員会会長 金子雄司

6月から9月にかけて21すべてのプラザが開校、幾つかの休講ある中で順調に進められたことは実に喜ばしいことです。5年度の参加児童は2,941人。昨年比322人増えており、子どもも保護者も、そして先生方もゆうゆうプラザの価値を再認識、評価されています。このことは特に土曜日に集中しますが、親子参加型の講座やイベントが増え、共にものづくり等をされる姿がとても微笑ましいものです。また平日開催の講座では、先生方が会議などのお仕事に支障がない限り、その日の講座を見学されたり、子どもと一緒に活動されたりする姿が感動的です。子どもが大喜びしており、校長先生のご高配に敬意と感謝を表します。

例年参加者が複数のグループに分かれ、2～3のテーマの下に各プラザの活動や課題等を話し合う情報交換会。今年度は事例発表会で、テーマは「事務量の効率化」。前年度末から年度初め6月頃にかけて作成・配布する募集要項や資料、年間の通知や会議資料、報告書など紙ベースのものは、学校規模や参加児童数によっては膨大な量となり、大きな負担となっています。そこで、以前から独自に事務量削減に取り組まれているプラザの中から代表として、「くきっ子」「さくらっ子」「みなみっ子」に発表をいただきました。デジタル化、ライン連絡等が活用されていますが、作成者や発信者の確保、学校との緊密な連携・連絡が重要です。そして先ずは「できる所から・・・」、スタッフ同士・ゆうゆうプラザ同士の交流や情報交換も必要です。

結びに、年間を通じて運営にあられる委員長はじめ実施委員、指導者・サポーターの皆様にはそれぞれの立場で会議や諸準備、講座活動、まとめ等をいただき、保護者・地域の方々にはご協力をいただいたことに厚く御礼申し上げます。

併せて、日頃から格別のご指導・ご支援を賜ります各学校、教育委員会、関係団体等各位に改めて衷心より感謝申し上げます。